【授業科目】看護過程論　　The Nursing Process

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
草野 純子、久留島 実姫 中村 いお美	２年次 後　期	必　修	1	３０	演　習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／看護を科学的・論理的に実践する方法論としての看護過程について、その意義や目的、看護過程の各段階について講義する。演習においては事例を通して看護過程の展開方法を実施する。 演習は、個人ワーク・グループワークで進めていく。なお、個人ワークやグループワークの進捗状況に応じてスケジュールを変更することがある。 課題に対するフィードバック方法／課題後の講義において口頭で説明を行う。
実務経験に関する 授業内容	看護師の臨床経験をもつ教員が、看護師として必要な思考過程知識について、関連する資料や事例教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①　看護過程の意義や目的を理解し、述べることができる。 ②　看護過程の各段階を理解し、述べることができる。 ③　演習を通して看護過程を展開する具体的な方法を個人およびグループワークを通して考え、実施することができる。 ④　講義・演習を通して、論理的、批判的思考を身につけることができる。
時間外学習に必要な 内容・時間	第 1-6 回　講義資料や参考図書を用いて課題事例の展開が行えるように事前学習及び復習を行う。（各 60 分） 第 7-10 回　課題事例のアセスメント、全体像（関連図）、看護上の問題点について個人及びグループワークを行い、紙上ディスカッションに向けての資料作成、意見交換を行う。（各 60 分） 第 11 回　全体像（関連図）及び看護上の問題点についての紙上ディスカッションを実施する。（90 分） 第 12-13 回　課題事例の看護計画の立案について、個人及びグループワークを行い、紙上ディスカッションに向けての資料作成、意見交換を行う。（各 60 分） 第 14 回　看護計画についての紙上ディスカッションを実施する。（90 分） 第 15 回　個人およびグループワークのこれまでの課題の追加修正を行い、看護過程の復習を行う。（各 60 分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第1回　ガイダンス：授業の進め方の説明 意図的な看護実践、問題解決過程と看護過程、クリティカルシンキング、ゴードンの枠組み 第2回　アセスメント① アセスメントとは（情報の収集から情報の分析） 第3回　アセスメント② 全体像の把握：対象者の全体像を捉える、全体像（関連図）を描く 第4回　看護上の問題点の明確化 看護が取り扱う問題、看護問題の種類、看護問題の表記方法、優先順位の決定 第5-6回　看護目標の設定、計画立案、評価、看護の実施と評価、看護記録 第7-8回　対象事例のアセスメント 情報の整理・分析を個人ワーク及びグループワークで行う 第9-10回 対象事例のアセスメント 全体像（関連図）の個人ワーク及びグループワークで行う 第11回　紙上ディスカッション 他のグループの全体像（関連図）看護上の問題点についてグループでディスカッションを行う 第12-13回　対象事例の看護計画の立案 看護計画の立案を個人ワーク及びグループワークで行う 第14回　紙上ディスカッション 他のグループの看護計画についてグループでディスカッションを行う 第15回　看護の実施と評価・看護記録、全体まとめ 全体まとめと実施・評価について	①－⑥ 講義：草野 ⑦－⑭ 演習： 草野、全教員 ⑮ 演習：草野
評価方法 評価基準	課題 95%　課題・演習への参加態度 5%
教科書	医療情報科学研究所編集、『看護がみえる vol.4 看護過程の展開第１版』、メディックメディア R．アルファロ・ルフィーヴァ著、江本愛子監訳『基本から学ぶ看護過程と看護診断　第６版』医学書院 M. ゴードン著、江川隆子監訳『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針　よくわかる機能的健康パターン』照林社
参考書等	任和子『実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド』照林社 リンダ J. カルペニート=モイエ　著『看護診断ハンドブック　第 11 版　』 ・T. ヘザー・ハードマン（編集),『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 原書第 12 版』
学生への 助言等	看護過程論に合格していることが基礎看護学実習Ⅱの受講要件となります。 看護過程は看護を論理的に科学的に実施するために重要な方法です。実習だけでなく看護職としても質の高い看護を提供するために必須のものです。看護過程の展開が実施できるように個人ワークやグループワークに積極的に参加してください。また、看護過程論は基礎看護学実習Ⅱに関連した講義になるため、内容の理解を深め、実施する力が身に着くように各自が自らの力で考えることが重要になります。